

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北陸)	良く なっている	乗用車販売店 (経理担当)	販売量の動き	・11月の車の販売量は、前年同月比150%であった。 なお、今年8月における車の販売量は前年同月比66%であったことにより、3か月前と比較すると、かなり良くなっている。
		旅行代理店(従 業員)	来客数の動き	・現状はあまり客の動きが無く売上の増加幅は大きくはないが、秋の旅行シーズン終了間際の駆け込み需要が見込める時期であることにより、全体として良い方向に動いている。
	やや良く なっている	一般小売店[精 肉](店長)	単価の動き	・売上は全般的に増加傾向にあり、特にギフト用商材の売上単価は1000円程度上昇している状況にある。
		一般小売店[事 務用品](店 員)	お客様の様子	・前月に引き続き、販売見込みや商談件数が緩やかに増加している。消費税率引上げ前の駆け込み需要と考えているが、継続的な動きであることより、今後の需要動向についても期待している。なお、全体としては3か月前の状況よりやや良くなっている。
		スーパー(店 長)	販売量の動き	・来客数の動きはほとんど変わっていないが、客の購入数量が非常に多くなっており、3か月前の状況よりやや良くなっている。
		スーパー(総務 担当)	販売量の動き	・売上は前年同月を上回っている。当該要因としては、値上げによる1品単価の上昇もあるが、生鮮品及びし好品において1人当たりの買上点数が当該月を上回る状況が続いていることに起因している。なお、全体としては、3か月前の状況よりやや良くなっている。
		乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・消費税率引上げ前の納車を希望する客からの受注が多くなっている。
		乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・前年9月にエコカー補助金が終了したこともあり比較する尺度は異なるが、今年は通年を通して新型車効果が好調に作用している。また、前月あたりから、消費税率引上げに伴う駆け込み需要が出ているように感じている上、今後も当該需要が強まってくると考えている。全体としては3か月前の状況よりやや良くなっている。
		自動車備品販売 店(従業員)	お客様の様子	・例年当該時期はスタッドレスタイヤを中心に冬季用品の動きが活発になるが、最近は低価格商品より性能重視の客が多く、単価も前年同月より上昇している。
		高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・冬の味覚で有名な香箱ガニが数十年ぶりに漁期の終了時期を1月10日から2週間繰り上げることが新聞紙面で大きく報道された後、カニを含めた受注予約が大きく伸びた。なお、和食部門の売上については、例年同月比115%で推移している状況にある。
		観光型旅館(経 営者)	来客数の動き	・10月以降、宿泊客数が前年同月比約10%増加している。
		通信会社(職 員)	それ以外	・どのイベントの人出も多く、また、高速道路及び国道などの交通量も多い。
	通信会社(営業 担当)	来客数の動き	・新規取扱メーカーのスマートフォンにより販売数は増加傾向にあるが、当該スマートフォンの要望客は先行販売店において購入していることにより、極端な増加には至っていない。	
	通信会社(店舗 統括)	来客数の動き	・来客数は増加傾向にある。	
変わらない	商店街(代表 者)	お客様の様子	・急に寒くなってきたことにより、冬物衣料が動き始めたが、今一勢いが無い。毎年当月に開催されるデパートの特別招待会についても、一定程度の気持ちはあるが長続きすることは無く、全体の売上は前年同月並みもしくはそれ以下の状況にある。	
	一般小売店[鮮 魚](従業員)	販売量の動き	・10月中旬以降、売上が前年同月を上回る部門が増加傾向にあり、また、当地を訪れる観光客についても確実に増加してきている。景気回復の実感はまだ無いが、今後一層景気が悪化する気配は無くなりつつあると認識している。なお、全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。	
	百貨店(売場主 任)	単価の動き	・売上単価及び客単価は上昇傾向にある。一方、来客数については多少減少したが、一時的な動きと考えている。全体としては3か月前の状況とほとんど変わっていない。	

百貨店（営業担当）	お客様の様子	・売上は良いものと悪いものが混在している。具体的には、非日常的な使い勝手の悪いものは苦戦しているが、毛布や土鍋など冬季の商材については良いものにこだわって購入する動きも見受けられる。なお、全体としては3か月前の状況とほとんど変わっていない。
百貨店（営業担当）	来客数の動き	・10月同様11月も天候不順により、優待セールを開催しても来客数は増加せず、また、商材についても必要なもののみを購入する傾向にあり、客単価は上昇せず苦戦している状況にある。なお、全体としては3か月前の状況とほとんど変わっていない。
百貨店（一般顧客訪問担当）	販売量の動き	・高単価商材の好調は続いているが、全体の来客数及び販売量を勘案すると、景気が変わったとはいえない。なお、全体としては3か月前の状況とほとんど変わっていない。
スーパー（店長）	単価の動き	・客の買物状況をみると、大容量のものが購入されていないことがうかがわれる。また、野菜の高騰や食品原料の値上がりに加え、長雨や気温の低下が売上の減少に拍車を掛けている状況にある。なお、全体としては3か月前の状況とほとんど変わっていない。
スーパー（統括）	単価の動き	・単価の動きについては、前年同月と比較すると、野菜相場については多少高騰しているものの、そのほかの商品の1品単価及び客単価については継続して変わらない状況にある。
コンビニ（経営者）	販売量の動き	・売上については、4か月前の近隣地域への競合店の出店時に落ち込み、それ以降においては多少の回復傾向はみられたが、前年同月比約90%という状況が続いている。
コンビニ（店舗管理）	お客様の様子	・販売促進のためのチラシを投入したが、価格訴求商品への反応は良いものの新商品への反応は極めて薄く、売上の増加にはつながらなかった。消費者の厳しい購買行動に拍車が掛かっていることが感じられた。なお、全体としては3か月前の状況とほとんど変わっていない。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・都市部における百貨店の回復傾向についてはよくマスメディアなどで伝えられているが、地方の小売業は特に衣料品においては当該傾向が全く感じられず、売上の前年同月確保が厳しい状況にある。なお、全体としては3か月前の状況とほとんど変わっていない。
衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・企業経営者、商店街店主、従業員をグループ別に考えると、企業経営者グループが最も明るい景気見通しを持ち、従業員グループが最も暗い景気見通しを持っている。なお、景気が下降気味だという意見は非常に少ないが、当地は景気回復とは無関係であり、都市部との景気の格差を感じているとの声が多く聞こえてくる。全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。
衣料品専門店（総括）	販売量の動き	・売上については気温の低下とともに増加すると想定していたが、3か月前とほとんど同様の状況となった。
家電量販店（店長）	販売量の動き	・高単価の商品が売れてきてはいるが、販売数量が落ち込んでいる。全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。
住関連専門店（店長）	お客様の様子	・現状は、消費税率引上げ前の駆け込み需要に伴う新築などの購買は発生しているが、それ以外の部分においては動きがあまりみられていない。なお、買換え需要などについては3か月前より減少していると感じている。全体としては3か月前とほとんど変わらない状況にある。
その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・現状は商材の動きも悪く来客数も少ない状況にあり景気は良くない状態であるが、全体としては3か月前の状況とほとんど変わっていない。なお、12月のお歳暮需要には期待をしている。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・客の給油量をみると、満タン給油より10リットルや20リットルといった数量指定による給油が多いように感じられる。なお、全体としては3か月前の状況とほとんど変わっていない。

その他専門店 〔医薬品〕（総務担当）	来客数の動き	・雨の影響により、来客数は前年同月比マイナスとなっている。なお、季節どおり寒くなっているが、風邪薬については、前年同月比で大きく売上を減少させている。また、健康食品、ダイエット関連商材及び化粧品の動きは低調な状況にある。一方、食品については、売価を下げたこともあり、順調に推移している。全体としては3か月前とほとんど変わらない状況にある。	
その他小売 〔ショッピングセンター〕（統括）	来客数の動き	・上期は堅調であった来客数の伸びが、下期になって鈍化してきている。また、買上単価についても大きな上昇傾向はみられず、全体の売上にブレーキが掛かっている状況にある。なお、全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。	
一般レストラン （スタッフ）	来客数の動き	・3か月前とほとんど変化が無い状況にある。	
スナック（経営者）	来客数の動き	・11月については、天候が良くなったこと及び祭日があったが、最悪であった3か月前と状況は変わらず、売上は前年同月比7割となった。なお、都会の出張客より、当店の状況について、「アベノミクス効果により多忙であるのではないか。」との声も聞くが、実態は上述のとおりであり、都会との温度差を感じている。また、カラオケ店からも良い話は聞こえてこない。	
観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・総売上は前年同月比103%、宿泊人数は同104%、宿泊単価は同100%となった。なお、好調の要因は、募集型企画旅行に伴う案件が当該比114%であったこと及びインバウンド客の好調さによるものと考えている。全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。	
都市型ホテル （スタッフ）	販売量の動き	・宿泊部門及びレストラン部門は好調に推移しているが、宴会部門は苦戦している。なお、全体の売上については、前年同月比微増状況にある。	
都市型ホテル （スタッフ）	販売量の動き	・前年同月と比較すると、宿泊部門においては外国人客が増加しているが、レストラン部門は夜の客が増加しない状況にある。また、宴会部門においては、前年同月並みとなっている。なお、全体としては3か月前の状況とほとんど変わっていない。	
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・ちまたでは消費税率の引上げに伴う駆け込み需要が発生しているようであるが、弊社においては今後の支出に備え手控え感があるように感じている。なお、全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。	
タクシー運転手	販売量の動き	・ビジネス客は横ばい傾向にあり、夜の繁華街は相変わらず静かな状況にある。	
通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新規加入数については、最近数か月、横ばいの状況が続いている。なお、3か月前と比較すると、新規加入数及び解約数ともに変化が無い。	
通信会社（役員）	販売量の動き	・競合する大手通信事業者における多額の特典を付与した販売戦略に苦慮している状況にある。なお、当社においては、同事業者への対抗策として対応の特典を準備しているが、獲得件数は前年同月を多少下回っている。全体としては3か月前の状況とほとんど変わっていない。	
通信会社（役員）	お客様の様子	・加入数及び解約数ともに3か月前とほとんど変わらず、景気の変化は感じられない。	
その他レジャー施設（職員）	お客様の様子	・入会者数及び退会者数ともに、一進一退の状況にある。	
やや悪くなっている	一般小売店〔書籍〕（従業員）	販売量の動き	・年末に向け来客数は増加してきているが、売上についてはそれほど増加してはいない。全体としては、3か月前よりやや悪くなっていると認識している。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・価格を問わず全体として売上が減少傾向にあることにより、先行きが不安である。全体としては3か月前よりやや悪くなっていると認識している。
	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・客単価は変わらないが、来客数が減少している。特に、気温が低下すると販売量の増加が見込める暖房用品及び防寒衣料の伸びが悪い状況にある。
	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・消費税率引上げ前の駆け込み需要工事に伴い、作業現場へ向かう作業員の姿は増加しているように見受けられるが、全体の来客数は前年同月比約8%減少している状況にある。

	衣料品専門店 (経営者)	販売量の動き	・比較的寒くなってきてはいるが、日中はまだ暖かい日が多く、単価が高額の防寒物のブルゾンやコートなどの動きが弱い。
	タクシー運転手	来客数の動き	・年末が近づいてきたことに伴い、客は買物や夜の繁華街への外出を控えているように感じている。実際、タクシーへの乗車回数が減少しており、売上単価についても低下傾向にある。
	テーマパーク (職員)	来客数の動き	・直近3か月の前年同月比の推移状況を見ると、好調だった予約水準が次第に落ち込んできており、特に、今月は予約の伸びが鈍っている。やや悪い方向に推移しているように感じている。
	美容室(経営者)	来客数の動き	・今年の夏以降、美容業界においては、来客数及び売上ともに、前年同月を維持できない状況が続いている。全体としては3か月前よりやや悪くなっていると認識している。
	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・完工面は多忙であるが、一方受注量は月を追って減少し続けており、前月は現行の消費税率が適用される請負工事契約の締結期限が9月末であったことにより、特に大幅な減少となった。なお、今後も当該量の減少は回避できず、これまでの管理先の需要のみでは受注数字の減少を止めることはできないと考えている。全体としては3か月前よりやや悪くなっていると認識している。
	住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・前月から引き続き展示場への来場者数や問い合わせが少なく、現行の消費税率が適用される請負工事契約の締結時期の9月末の終了による反動減が続いている状況にある。なお、全体としては3か月前よりやや悪くなっていると認識している。
	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・現行の消費税率が適用される請負工事契約の締結時期の影響に伴う駆け込み受注が9月末で終了したことにより、10月以降は厳しい状況が続いている。なお、全体としては3か月前よりやや悪くなっていると認識している。
	住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・現行の消費税率が適用される請負工事契約の締結期限が9月末であったことにより、住宅展示会を開催しても来場者数が減少している。
	悪くなっている	コンビニ(店長)	それ以外 ・前月末に店舗前道路と並行している道路が延長されたことに伴い、店舗前道路の交通量が減少し、また、一見の客の減少が目立ったことにより、来客数及び売上ともに、3か月前より約5%減少した。
企業 動向 関連 (北陸)	良くなっている やや良くなっている	-	-
	食料品製造業 (役員)	受注量や販売量の動き	・販売面をとらえると、売上重量ベースで前年同月比107%となっており、今秋より継続的に増加している。
	繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・輸出関連については予想を下回る状況にあることから勢いに欠けるが、受注については前年同月を少し上回る状況になっている。全体としては3か月前の状況よりやや良くなっている。
	繊維工業(経営者)	取引先の様子	・売上及び受注状況については、衣料関係が非常に苦戦しているが、非衣料関係は引き続き安定している。なお、全体としては3か月前の状況よりやや良くなっている。
	プラスチック製品製造業(企画担当)	受注量や販売量の動き	・3か月前と比較すると、来年4月の消費税率引上げの影響に伴う受注量の増加が顕著に表れている。
	一般機械器具製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・海外及び国内の受注が増えてきている。
	建設業(総務担当)	受注価格や販売価格の動き	・低価格で受注する業者が一部に見受けられるが、価格競争は緩和傾向にあり過度な受注競争は減少してきていることにより、3か月前の状況よりやや良くなっている。
	輸送業(配車担当)	受注量や販売量の動き	・来年4月の消費税率引上げに伴い、住宅関連などの物量が増加している。
	金融業(融資担当)	取引先の様子	・市内における不動産取得や北陸新幹線開業対応の設備案件に動きがみられ、3か月前の状況よりやや良くなっている。
	司法書士	取引先の様子	・新築住宅及び分譲マンションの売行きが好調であるほか、改装工事などにおいて職人が不足しているため、当該工事を待たされてるといった話も多い。

	税理士（所長）	受注価格や販売価格の動き	・建設業においては、人手不足もあり、元請けからの受注単価に改善の動きがみられている。また、製造業の受注単価についても、原材料価格の値上がりはあるが円安の影響もあり、大手企業においては値段の引上げに応じる動きが出てきている。上述の件により、全体としては良い状況にあると感じている。	
変わらない	精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年度末に向けた在庫調整の影響により多少受注量は減少傾向にあるが、例年同時期より減少幅は少ない状況にある。なお、現在は生産キャパシティがほぼ目いっぱいの状態である。全体としては3か月前の状況とほとんど変わっていない。	
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・11月は受注についてはほぼ計画どおりであるが、依然として交通誘導員やダンプカーが不足している上、天候不順により工事ははかどらず、多忙な割には利益率が下がっている状況にある。ただし、景気が悪いとはいえ、全体としては3か月前の状況とほとんど変わっていない。	
	輸送業（配車担当）	受注量や販売量の動き	・物の動きは悪くはないが、以前と変わらない状況が続いている。ただし、円安が進み軽油価格が上昇していることが心配である。	
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・北陸地域の各種指標は比較的上向き傾向にあり期待はあるが、取引先の状況を見ると売上は伸び悩んでおり、前年同月比で減少している先も多く苦戦している模様にある。なお、企業により相違するが、景気が上向くにはまだ時間が掛かると想定している。全体としては3か月前の状況とほとんど変わっていない。	
やや悪くなっている	新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上については、前年同月比3か月連続減少傾向にある。なお、全体としては3か月前よりやや悪くなっていると認識している。	
悪くなっている	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・全体としては3か月前の状況より悪くなっている。なお、同業者によると、今後は仕事はかなり止まってくるという話がよく聞かれる。	
雇用 関連  (北陸)	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の効果が少なくなってきたという声もあるが、求人意欲は依然として高い状況にある。なお、全体としては3か月前の状況よりやや良くなっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は今月も増加傾向にある。なお、事業所の求人意欲は最近増加してきているが、求職者の反応があまり芳しくないように感じている。当該要因としては、正社員希望の求職者と当面の労働力を必要としている企業間における雇用のミスマッチが発生し始めていることによるものと想定している。全体としては3か月前の状況よりやや良くなっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月比6.9%増加し、製造業においても同4.3%増えた。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・即戦力になり得る人材の需要件数は増えているがマッチングは厳しく、また、時節的に短期間の需要はあるが希望者は少ない状況にある。なお、全体としては3か月前の状況とほとんど変わっていない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数は3か月前と比較して、ほとんど変化がみられない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・増加傾向にあった求人数が横ばい状況になってきている。なお、全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・人材紹介及び派遣とともに、受注数が少ない状態が継続している。
		学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・平成25年度に卒業予定の学生の内定率が前年同月より多少上昇しているが、全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・派遣修了者は前年度より増加傾向にあるが、来年度に向けて派遣の開始を予定している人数は前年度より少ない状況にある。また、受注案件は増加傾向にあるが、マッチング数が少なくなったことから、全体としては3か月前よりやや悪くなっていると認識している。
新聞社〔求人広告〕（担当者）		求人数の動き	・11月の求人広告の売上は、前年同月比7割弱であった。	
悪くなっている	-	-	-	